



2024
**ANNUAL
REPORT**



JCI 大阪

Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

ANNUAL REPORT 2024
JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL OSAKA



Junior Chamber International
Osaka

**The Sense of Wonder
from Osaka**

徳の連鎖が世界を変える



目次

大阪青年会議所とは	04
大阪青年会議所の歴史	05
理事長所信	06,07
01.子どもの未来を地域と共に送り継ごう！	
オヤクエ	09
第43回大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会	10
Kids Explorers～心に残る、ありがとう～	11
02.まちの総力で未来社会をつくろう!!	
Youths Future Creation Act	13
第16回MINATO天保山まつり	14
Osaka Innovation project	15
第36回なにわ淀川花火大会	16
海洋ゴミリサイクル事業	17
献血事業	18
こども食堂	19
03.未知なる領域へ臆せず踏み出そう!!	
WIN Pro	21
ZERO HIGH PROJECT	22
TOYP~The Outstanding Young Persons~	23
04.時代に合わせたアップデートを続け、多様性と包摂性をもった組織を！	
新年名刺交換会	25
大阪会議	26
月例会	27
月例会講師講演詳細レポート	28,29
OB現役交歓会	30
会員大会	31
2025年大阪関西万博に向けての活動	32
広報活動紹介	33
活動協力企業及び連携先紹介	34
シスターJC締結	35
2024年度の歩み	36,37
2024年度組織図	38,39

徳の連鎖が世界を変える



大阪青年会議所とは

about Junior Chamber International Osaka

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、责任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所(商工会議所法制定にともない青年会議所と改名)設立から、日本青年会議所(JC)運動は始まりました。

共に向かう、社会に貢献しようという理念のもと、1950年には大阪青年会議所が国内で2番目に創設され、日本JCという国家青年会議所を設立するための重要メンバーとして関わってきました。また各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所(日本JC)が設けられました。

現在、全国に青年会議所があり、三つの信条(トレーニング「個人の修練」、サービス「社会への奉仕」フレンドシップ「世界を結ぶ友情」)のもと、よりよい社会づくりをめざしボランティアや行政改革などの社会課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所(JCI)のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。

大阪青年会議所の特性

Characteristics of Junior Chamber International OSAKA

青年会議所には品格のある青年であれば、個人の意思によって入会できますが、大阪青年会議所では25歳から40歳までという年齢制限を設けています。(但し入会資格は満25歳から37歳まで)これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を結集し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。会員は40歳を超えると現役を退かなければなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。

各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られています。会員は1年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動に展開しています。

青年会議所におけるさまざまな実践トレーニングを経験した活動分野は幅広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば国會議員をはじめ、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

団体概要

Organization overview

団体名	一般社団法人大阪青年会議所
独立年月日	1950(昭和25)年3月25日
社団法人格取得年月日	1955(昭和30)年1月17日
一般社団法人移行年月日	2014(平成26)年1月6日
事務局所在地	〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-30 オーク4番街401号室
連絡先	TEL : 06-6575-5161 FAX : 06-6575-5163
正会員数	724名(令和6年12月31日現在)
OB会員数	2,832名(令和6年12月31日現在)
事業年度	1月1日~12月31日
URL	https://www.osaka-jc.or.jp

大阪青年会議所の歴史

- 1950年 大阪青年会議所創立
- 1951年 日本青年会議所創立
- 1957年 「整肢学院児童招待ドライブ」を開始
- 1962年 「JCIアジアコンファレンス」を大阪にて開催
- 1970年 万国博野外劇場施設及び参加催物の提供
- 1974~83年 「淀川マラソン」を実施
- 1974年 淀川改修100年を記念して「淀川100野外祭」を開催
- 1980年 「JCI世界会議大阪大会」を開催
- 1980~89年 「国際シンポジウム」を開催
- 1980年 「キッズ スワップ(交換ホームステイ)」を開始
- 1981年 「TOYP(The Outstanding Young Person)大阪会議」を開催
- 1982年 「わんぱく相撲」を実施
- 1985年~ 天神祭「船渡御」への能、文楽、歌舞伎船での参加
- 1986年 「Save The Children Japan (SCJ)」設立(大阪JCが中心となって設立)
- 1995年 阪神・淡路大震災における組織的支援活動／国連広報局よりNGOとして承認
- 1996年 「大阪NPOセンター」設立(大阪JCが中心となって設立)
「大阪モデル国連会議(OMUN)」開催
- 1998年 「第2回世界遺産国際ユースフォーラム1998」を開催
- 2000年 大阪JC創立50周年記念植樹／「大阪JC実りの森」を実施
- 2001年 「日本JC第50回全国会員大会大阪大会」を開催
- 2008年 インド・ニューデリーにて、「2010年度JCI世界会議」が大阪に決定
- 2010年 「大阪JC創立60周年記念式典・祝賀会」開催

「第65回JCI世界会議」を大阪にて実施
- 2012年 「第67回JCI世界会議台北大会」でブノンベンJCとシスターJC締結
- 2014年 一般社団法人へ法人格を移行
- 2015年 「大阪JC創立65周年記念式典」開催
- 2016年 18歳選挙権解禁に伴うULTRA VOTE PROJECTの開催
- 2017年 マチミラOSAKA2017の開催
- 2018年 大阪市への公開提言の実施／万国博覧会の開催決定
- 2019年 SDGs MIRAIKAIGIの開催／SDGs甲子園×TOYPの開催
- 2020年 「大阪JC創立70周年記念式典」開催／粋の祈りプロジェクトの実施
- 2021年 「献血にいたんでプロジェクト大阪2021」開催／「大阪未来博」を開催
- 2022年 「バズるFUKUSHIMA」開催／「モトテラシーOSAKA」の実施
- 2023年 「みらいく／World Citizenship Congress／Pe-sports fes'23」の実施
「MINATO天保山まつり」の開催／
「Kids Explorers～心に残る、ありがとう～/ゼロハイプロジェクト」の実施
- 2024年



整肢学院児童招待ドライブ



淀川マラソン



わんぱく相撲



阪神・淡路大震災支援活動



第65回JCI世界会議 大阪大会



大阪JC創立65周年記念式典



マチミラOSAKA2017

The Sense of Wonder from Osaka

徳の連鎖が世界を変える



一般社団法人 大阪青年会議所
第74代理事長 更家 一徳



つないできた歴史が存在します。かつての大坂万国博覧会のように、その時代の人びとの精神に原体験ともいえる未来への期待感を打ち込み、世界に様々な驚きや感動を提供してきたまちの力をより力強いものとして再生するためには、まちを織り成す270万人すべての人びとが確固たる信念のもとで想像力を働かせ、その一員としての誇りと役割を自覚しなければなりません。そして、まちの未来を自らと重ね合わせ、未知の領域に一步踏み出す勇気をもって行動を響き合わせることでこそ「叡智を集め、未来社会のあるべき姿を発信し続ける大阪」として、託された役割と未来への責任を果たすことができるのです。さらに、大阪が変わることは、これから地球の未来においても大きな可能性を秘めています。大阪が変われば日本が変わり、日本が変われば世界が変わる。私たちは、自らの手で世界を変える可能性を感じ、大阪から始まる徳の連鎖を世界につなぐまちを実現します。

地域と共に送り継ぐ子どもの未来

自己を構成する外的要素が選択肢として無数に存在する現在、これまで普通とされていた扱い所が失われ、次代を担う子どもたちのアイデンティティの確立が一層困難になりつつあります。子どもたちの、代替不可能な固有な存在であるという感覚を呼び覚まし、豊かな感情や思考力、表現力の基礎を培い、可能性をどこまでも描くことができるようになるために、子どもたちを取り巻く親や周囲の大人が、世代間の交流により、かつて好奇心や想像力を刺激する感動に触れ自らを構成していく、時を超えて受け継がれてきた原体験を伝えていかなくてはなりません。また、社会全体で私事化の傾向が顕著になりつつある中、子どもたちの他者への思いやりや、生命や人権に対する意識の低下傾向が指摘されています。元来、始末の文化に表されるように、大阪に住み暮らす人びとのアイデンティティには、万物に感謝する想いが脈々と息づいています。このまちに生きる先人として、受け継がれてきた自然と文化、人と人とをつないだ想いを呼び覚まし、自らを支えるあらゆるものを見出し、想いを巡らせる力を育んでいく未来への指針を、地域と共に示さなくてはなりません。私たちは、過去から紡がれてきた地域の一員としてのアイデンティティを確かな誇りと共に次代に伝え、彼らの成長の糧としながら他者への思いやりを育み、地域の絆と個人の成長を豊かな想像力と共に守り育てることで、世代を超えて地域の未来をつなぐ大阪を実現します。

まちの総力で発信する未来社会の姿

近年、大阪では、人口流入により、情報技術の進化と共に育った若い世代が増加しています。今後の日本の再生と成長の中心として大きなポテンシャルを持ちながらも、従来の社会構造の中ではその機会を有効に活かせていないのが現状です。彼らを含めたまちのすべての人びとの革新的な発想や可能性を



最大限に引き出すためには、まちを構成し共に創りあげる一員としての自覚を抱き、自ら描いたビジョンに真摯に向き合い能動的に参画していく仕組みを、あらゆる団体の壁を越えて築き深めていかなければなりません。そして、2025大阪・関西万博を「地域と世界が交差する新しい万博」として、共創の連鎖を地球規模で拡大させていく起爆剤として世界に示すことでき、世界に先駆け、未来社会のあるべき姿を大阪から世界に発信することができるのです。また、テクノロジーの洗練、高度化によって引き起こされるシングュラリティは、既に社会を変容させながら、様々な側面と共に私たちに挑戦を投げかけています。今後、更なる変化の加速が予測される中、先駆けてこの変革に向き合うことができなければ時代に取り残されることは必然です。今を生きる当事者である私たちは、既存の価値観と新たなテクノロジーが融合した新たな価値の創出とそれを受け止めるだけの精神的土台をまちに住み暮らす人びとが一体となって再認識しながら、次の時代に託してゆく責任を果たさねばなりません。私たちは、役割を自覚したあらゆる人びとが主体的に活躍し、培われてきた土台の上で新たな価値観が響き合い、万博を起点とした共創の連鎖を世界に拓げるための中核となって、垣根を超えた人びとを共感でつなぐ大阪を実現します。

勇気をもって踏み出す理想への挑戦

古くから商業の中心地として栄えてきた大阪には、まちと共に培われてきた素晴らしい技術や資源を持ちながらも、縮小する地場市場の中で先行きを見通すことが困難な企業が沢山存在します。世界に目を向ければ根強い需要が存在する中、海外との活発な交流が再開しつつある今こそ、私たちはアジアの中心都市として世界をリードし続ける持続的なビジネスを推進しなければなりません。国内外からのアクセスに恵まれ、国際的な拠点としてのポテンシャルを備えたこのまちだからこそ、あらゆる力を結集してこれまで紡がれてきた地域の魅力を世界に発信し、垣根を越えて新たな挑戦を後押しする環境をつくりだし、一步踏み出す勇気を宿した人びとを羽ばたかせ、より良い形で次の世代に託すことができるのです。また、高い理想と共に設定された環境への目標は、コロナ禍を経て経済活動が再開された現在、見直しを余儀なくされています。悠久の過去から連綿と続いている自然の営みと、想いと共に紡がれてきた社会活動をどう交差させ次の世代へ継承し発展させていくのか、私たちは当事者として、これまで以上に明確な指針を示さなくてはなりません。ビジネスの傍ら、社会課題「も」解決する時代から、

社会課題「を」解決することでビジネスを行い、拡大のチャンスへと変えていくことへと、更なる転換が求められているのです。私たちは、紡がれてきたまちの資源に確かな誇りを持ち、国境を越えた連携の中で新たな挑戦へと踏み出す勇気を持ち、次代に向けた持続的な共存発展へのビジョンを実現する起点として、現在の企業とあるべき未来をつなぐ大阪を実現します。

新たな価値を未来に送り継ぐ組織に

時代によって理想の社会像が変わるように、その実現のためのあるべきJC像も変わります。その中で、私たち自身が常に時代に合わせたアップデートを続けることができなければ、将来、有象無象の団体に埋もれかねない時代の転換期を迎えていきます。JCしかない時代から、JCもある時代を経て、JCでなければならない時代へと変化するため、大阪青年会議所はあらゆる団体の垣根を越えたハブとして想いを集め、未来へのビジョンに変えた発信源として、代替不可能な存在としてのアイデンティティを内外に示し続け、共感の輪を広げていかなければなりません。それには、より良い未来を次代に送り継ぐ牽引者として、すべてのメンバーが青年経済人としての能力を余すことなく発揮できる環境を構築することが欠かせません。同調圧力や慣習に安易に倣うことなく、同じビジョンを目指す中で多様な視点と価値観が響き合う、多様性と包摂性をもった組織のもとでこそ、妥協を許さず仲間と共に想いをぶつけ合い、国境を越えた同志とのつながりによって互いのポテンシャルを最大化し、まちの、国の、世界の新たな価値創造に貢献し、組織が培ってきたつながりを未来に送り継ぐ起点となることができるのです。そして、理想に向けて共に走り続けた経験は、これから先、壮年期、老年期を迎える私たちのアイデンティティの一部となるかけがえのない体験となるでしょう。

私が世界から何かを受け取った記憶、原体験は、幼い頃の川遊びでした。眼前一杯に無数に光る魚と、滝のせせらぎの音。そこで味わった素晴らしい経験を、私は次の世代にも託したい。驚きや感動は、感じる人の数だけ無限に存在します。それこそが人の心を動かし、社会を変える原動力となるのです。かけがえの無いこの地球の財産を、今を生きる我々の手で、次の世代へつなげていこう。センス・オブ・ワンダーを未来へ送り継ぐために。

大阪から始まる徳の連鎖

私たちの住み暮らすまち大阪にも、時代によってあるべき姿を模索しながら発展を続け、大切な人やまちの未来のために有形無形の資産を想いと共に

01. 子どもの未来を 地域と共に送り継ごう！



住み暮らす地域と自らの感性を 大切にできる環境構築を！

地域の団体と連携し、子どもの感性の源となる原体験を創り出す事業「オヤクエ」と、支え合いによって成り立つ地域への感謝を育む事業を「Kids Explorers」を行いました。地域の未来を担う子どもを、地域がもつ強みを活かして育てる環境構築を目指しました。



オヤクエ

大阪市に住み暮らす小学4~6年生の子どもを育てる大人を対象に、自然体験を中心とした原体験を通じて子どもの興味関心を掻き立て、物事を心に深く感じ取る豊かな感性を育む環境構築を地域で行う人びとを創出しました。

大人と子どもで参加できる自然体験型プログラムを全3回実施しました。大阪市内での水中生物の生態系観察や、山の中でのオリエンテーリング、淡路島での宿泊野外体験などを通じて、子どもたちの非認知能力（感覚機能、思考力、創造力、問題解決能力）が育まれることを、子どもと一緒に体験することで感じていただきました。

対象者が、こういった体験活動を広く行うことの重要性を認識し、より多くの子どもたちに体験活動を提供する団体を設立し、継続的に関与する土台をつくることができました。



第43回大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会

第43回大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会は、コロナによる中止や縮小開催を経て5年ぶりの大規模開催を目指して企画しました。コロナ以前の規模とはなりませんでしたが、大阪市内の小学生436名が集まり、非常に盛り上がった大会となりました。

当日の会場では、試合を控え緊張した顔の子、お祭り騒ぎで走り回っている子、勝って喜びを爆発させる子、負けて悔しくて泣いちゃう子、たくさんの子どもたちが様々な表情を見せてくれました。また、保護者の方々や我々設営側もその姿に引き込まれ、子どもたちの挑戦を地域全体で応援しようと感じられる素晴らしい大会となりました。秀ノ山親方(元琴奨菊関)、武隈親方(元豪栄道関)にもゲストとして参加いただき、大会に花を添えていただきました。



Kids Explorers～心に残る、ありがとう～

「Kids Explorers～心に残る、ありがとう～」は、大阪市内の小学生のお子様をお持ちの保護者の方々に、地域一丸となって子どもの感謝の心を育み、送り継ぐことについて考えていただく事業を行いました。田植え体験や収穫体験、料理コンテストを通じた買い出しに始まる調理体験、大阪を代表するお祭である天神祭の歴史を知る体験、いのちの繋がりの大切さを知る災害体験を通じ、子どもの感謝の心を育む体験の重要性を伝え続けました。このように、多岐にわたる体験を通じることで、参加者全員が地域の絆を強化し、多くの家庭や地域社会に広がり、子どもたちの健全な成長に寄与する基盤となりました。

02. まちの総力で 未来社会をつくろう!!



Youths Future Creation Act

未来のまちを創る高校生を対象に、対象者が主体的にまちづくりに参画する意識を醸成し、その意識を社会に広く発信する事業を実施しました。一般社団法人港まちづくり協議会大阪の松本英之様による講師講演を実施、世界の現状からみる日本の現状、そこから大阪の現状について理解を深めてもらいました。最後の集大成であるみなと天保山まつりにて企業との協働ブース、また市長や、来賓の皆様の前で自分たちが考えたまち創りを発表することで、自分たちでよりよいまちにしていこう!という気概が醸成できた事業となりました。

01 子どもの未来を
地域と共に送り継ごう!

02 まちの総力で未来社会をつくろう!!

03 未知なる領域へ臆せず踏み出そう!!

04 時代に合わせたアップデートを統一、
多様性と包摂性をもった組織を!



第16回MINATO天保山まつり

未来のまちを創る高校生を対象に、主体的なまちづくりへの参画意識を醸成し、その意識を広く社会へ発信する事業を実施しました。

事業の一環として、一般社団法人港まちづくり協議会大阪の松本英之様を講師に迎え、講演を行いました。講演では、世界の現状を踏まえながら日本、そして大阪の現状について理解を深め、高校生たちが地域の課題に対する視野を広げる機会となりました。

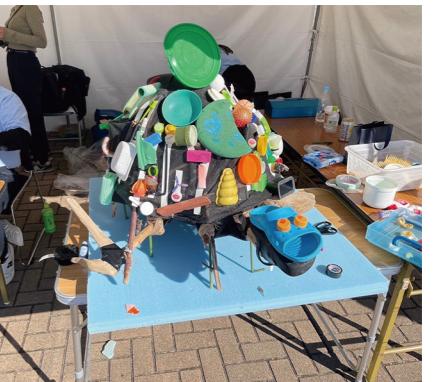
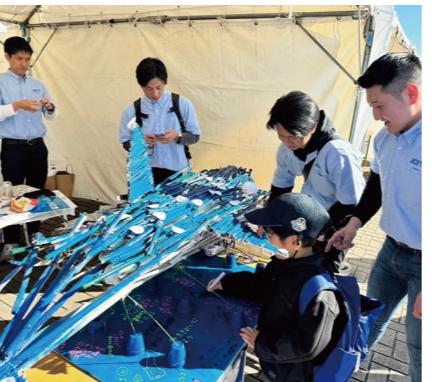
本事業の集大成として、「第16回MINATO天保山まつり」において、企業との協働ブースを運営するとともに、市長や来賓の皆様の前で自分たちが考えたまちづくりのアイデアを発表しました。この経験を通じて、高校生たちは「自分たちの手でよりよいまちを創ろう！」という強い意識を持つことができました。

また、「第16回MINATO天保山まつり」には、大阪青年会議所も共催として参画し、大阪・関西万博開催150日前イベントとして様々なイベントやゲストもお呼びしました。結果、累計4万人以上の来場者を迎えた大盛況のうちに終了しました。さらに、多くの企業の共感を得たことで、開催予算の大部分を協賛金により賄うことができました。



Osaka Innovation Project

事業説明会を実施し大阪のまちの課題や問題点を対象者である専門学生にまずは気づいてもらいました。そして「ふせのわ」と言うグループの代表者を外部講師として招き今まで行った近畿大学生による商店街の活性化事例を講演頂き今回の事業の全体イメージを掴んでもらいました。その後月に1度、事業構築会議を行いまちの方々とコミュニケーションをとりながら今回の「桜通りフェス」の内容を専門学生である若者を中心に企画・準備を進めて参りました。桜通り商店街を中心とした「みやこじマップ」というスタンプラリーを作成し都島を改めて巡りまちを知ってもらう企画、そしてシャッター商店街に屋台を出店し大人から子どもまでが楽しめるお祭りを実施、二日間で約2,500名の方々に楽しんでいただけた事業となりました。



第36回なにわ淀川花火大会

第36回なにわ淀川花火大会は、今回で大会の運営協力をするのは19回目となり、今では大阪の夏の風物詩になっています。この大会の運営協力また翌日の清掃までを行いました。実行委員会との打ち合わせを何度も行いました。大会当日は46万人の観覧者で大いに盛り上がり、翌日清掃につきましても650名を超えるボランティアのご参加をいただきました。

海洋ゴミリサイクル事業

海洋ゴミリサイクル事業は、大阪青年会議所の新人育成の一環として本年度入会いただきましたメンバーの皆様が中心となって、來たる2025年の大阪関西万博の開催を見据え、世界的に問題になっている海洋ゴミが大阪湾でも起こっていることを大阪市民に広く知ってもらう事業を行いました。実際に大阪青年会議所メンバーで大阪湾の海洋ゴミの回収を行い、その回収した海洋ゴミを用いて、オブジェを作成し、みなと天保山まつりにて展示し、来場者の皆様に見て、触れていただき、多くの来場者の皆様に海洋ゴミについて知つてもらうことができました。



献血事業

大阪青年会議所の全メンバーを対象に、大阪府赤十字センター・NPO法人関西骨髄バンク推進協会との共催で、6月15日に「献血にいったんでプロジェクト2024」を実施しました。本年度は、梅田HEPFIVE前、ドーム駅前、京橋駅前広場、上新庄駅前、なんさん通りの5会場に献血バスが置かれ献血の受付ブースを用意しました。大阪青年会議所メンバーがSNSやラジオ、チラシを活用した献血事業の事前告知、当日は現地にてプラカードを持ち一般の方へ呼びかけ、献血の必要性を広く発信する機会となりました。運営には2024度入会の新人会員も多く参加し、その結果約456名の方に献血にご協力をいただき社会課題に対して共感の輪を広げる機会となりました。



こども食堂

こども食堂事業は大阪青年会議所の新入会員が中心となって、食事メニューの企画や、本事業に共感いただける方への協賛を募り実施いたしました。大阪市内7か所で開催し、地域の子どもたちとその保護者の皆様が多数ご参加いただき温かい食事とレクリエーションを通じて地域全体が一体となる場を創出しました。この取り組みを通じて、新入会員は地域との連携の重要性を体感し、課題解決に向けた主体的な行動力を養っていただきました。

01 子どもの未来を
地域と共に送り継ごう！

02 まちの総力で未来社会をつくるう!!

03 未知なる領域へ臆せず踏み出そう!!

04 時代に合わせたアップデートを続け、
多様性と包摂性をもった組織を！

03. 未知なる領域へ臆せず踏み出そう!!



WIN Pro

「Worldwide Innovation Network Promotion」は、大学生と企業がチームを組み、企業の海外進出を展開していく事業です。

大阪府下の大学生20名と大阪府下の企業5社が一緒になり、企業が未開拓の海外市場を視野に入れ、海外でも通用するビジネスアイディアを作成し、在ホーチミン日本国総領事館でビジネスプレゼンテーションを行いました。

帰国後は「国際ビジネスネットワーク連携協会」という団体を設立。

今後も大学生が早くから、国際的な視野を手に入れ、大阪の経済発展に寄与できるよう、持続的に活動していきます。



ZERO HIGH PROJECT

万博前年度の年として、環境問題をテーマに大学生30名と共に問題解決に取り組み、【ゼロハイプロジェクト】と題して多くの人の意識を変えることができる次世代のリーダーを育成する半年に及ぶ事業となります。最終的には大阪万博におけるブルーオーシャンドームのパビリオンで発表するところまで事業としては行います。具体的な内容として定期的なワークショップと、日本で最もプラスチックごみが流れ着く長崎県対馬でのフィールドワーク、そして海遊館を舞台とした未来環境サミットを実施しました。ワークショップでは時には講師の方をお呼びしながら、毎回3時間超に及ぶ調査と議論を繰り返しました。対馬では現地でのゴミ拾いや、住人の方の民宿に宿泊したり、対馬市役所の方と一緒に現地のゴミ処理場を見学したりしました。未来環境サミットでは、WWF様、グリーンピース様、ゼリジャパン様、他にも多くの環境問題に取り組む団体の方をお招きして、環境問題について半年間考え抜いたプランを発表しました。



TOYP ~The Outstanding Young Persons~

TOYPとは、The Outstanding Young Persons(傑出した若者たち)の略で、本年度で第42回目を迎えるました。本年度は「現在とあるべき未来をつなぐ」をテーマに、世界5か国から環境に関する社会課題を解決することでビジネスを行うリーダーたちを招聘し、国際交流を行いました。

観光においては、サステナブルツーリズムというコンセプトを掲げ、日本の伝統から最新の現代アートまで、環境・文化を守り、未来へ贈り継ぐということが感じられるよう工夫を施しました。また、東京プログラムでは、皇室謁見のほか、日本で環境に取り組む企業3社との対談プログラムを実施し、大阪プログラムでは、茶道を体験していただくほか、ZERO HIGH PROJECTを通じ、環境への取組みを考えてきた大学生たちと意見交換を行っていただきました。

04. 時代に合わせたアップデートを続け、 多様性と包摂性をもった組織を！



共感を生み出す組織と一人ひとりが輝き、 行動するメンバーを！

多くの会員と共に、2024年度の組織の方向性を共有する「大阪会議」、外部講師を招き学びをきっかけをつくり、全メンバーの意識を統一する「月例会」、1年間の集大成事業である「会員大会」などを実施しました。これからも青年経済人としての志を基軸に、行動してまいります。



新年名刺交換会

大阪青年会議所の会員とOBが一同に介し、新年のお祝いをすると共に華やかな幕開けとして「まぐろの解体ショー」をオープニングアクトに実施しました。迫力あるパフォーマンスで新年の特別なひとときを彩りました。また、更家理事長のご挨拶が行われ、2024年度活動方針が共有されました。理事会構成メンバーの紹介を行い、新年の交流と大阪青年会議所のさらなる発展への期待を高める機会となり、参加者同士のつながりが重要な場となりました。

01 子どもの未来を
地域と共に送り継ごう！

02 まちの総力で未来社会をつくるう!!

03 未知なる領域へ臆せず踏み出そう!!

04 時代に合わせたアップデートを続け、
多様性と包摂性をもった組織を！



大阪会議

大阪会議は、大阪青年会議所の一年間の活動指針とビジョンを共有する場として、2024年1月13日から14日の2日間にかけて、伏尾温泉 不死王閣にて現役メンバーを対象に開催されました。大阪会議では、総勢400名を超える現役メンバーが参加し、月例会・総会・室会議・委員会・大懇親会など様々なプログラムを実施し、一年間を通じて、どのような目的をもって活動し、そのために何をすべきかを見極めるために様々な議論を行う有意義な会議となりました。

月例会

月例会は、現役メンバーの意識統一と情報共有、そして新たな学びを得る機会として月に1回、全メンバーを対象に開催されました。月例会では、理事長による活動報告やビジョンの共有に加え、出向者報告や各委員会の事業報告、そして、外部からの講師をお招きしての講師講演など、メンバー一人ひとりが大阪のまちをより良くする活動を行うための資質を向上させるべく、年間を通じて様々なプログラムを実施して参りました。

01 子どもの未来を

地域と共に送り継ごう！

02 まちの総力で未来社会をつくるう!!

03 未知なる領域へ臆せず踏み出そう!!

04 時代
多様性と包摂性をもったアップデートを続け、

月例会講師講演詳細レポート

Monthly meeting Lecturer lecture report

ANNUAL REPORT 2024

Junior Chamber International Osaka

1月度月例会

不死王閣
2024. 01.13
Sat. 14:00~



6月度月例会

帝国ホテル大阪
孔雀の間
2024. 06.20
Thu. 19:00~



7月度月例会

帝国ホテル大阪
孔雀の間
2024. 07.22
Mon. 19:00~



10月度月例会

帝国ホテル大阪
孔雀の間
2024. 10.15
Tue. 19:00~



11月度公開月例会

帝国ホテル大阪
孔雀の間
2024. 11.21
Thu. 19:00~



2月度公開月例会

帝国ホテル大阪
孔雀の間
2024. 02.05
Mon. 19:00~



3月度月例会

帝国ホテル大阪
孔雀の間
2024. 03.25
Mon. 19:00~



4月度月例会

帝国ホテル大阪
孔雀の間
2024. 04.22
Mon. 19:00~



01 子どもの未来
地域と共に送り継ごう！

02 まちの総力で未来社会をつくるう！！

03 未知なる領域へ臆せず踏み出そう！！

04 時代に合わせたアップデートを続け、
多様性と包摂性をもった組織を！



OB現役交歓会

OB現役交歓会では「チアダンス」のオープニングアクトで幕を開け、会場を明るく盛り上げました。理事長挨拶では、本年度の活動状況と今後の展望が語られ、OBの皆様への感謝の思いが伝えられました。また、事業の中間報告を行い、現役メンバーの努力の成果を報告すると共に、さらなる協力と支援をお願いしました。2025年度の理事立候補者の紹介が行われ、選挙事業への熱意が会場全体に伝わりました。OBと現役メンバーが交流し、絆を深め合う場となり、次世代へと受け継がれるJC活動の一端を担う貴重な機会となりました。

会員大会

会員大会では、更家理事長と卒業理事が参加した特別なオリジナルストーリーの吉本新喜劇からスタートしました。会場は笑いと感動に包まれ、和やかな雰囲気で幕を開けました。その後、一年間の成果を称える褒章の授与式が行われ、各メンバーの努力が表彰されました。理事長引継ぎセレモニーでは、更家理事長から山岸次年度理事長へとバトンが引き継がれ、新たな挑戦への期待が高まりました。そして卒業式では、送辞と答辞が感動的に交わされ、卒業生のこれまでの貢献に深い感謝と敬意が示されました。

2025年大阪・関西万博に 向けての活動

Activities for the 2025 Osaka Kansai Expo

2024年は、2025年に開幕する大阪・関西万博にむけ、万博開催150日前イベントとして、第16回MINATO天保山まつりが開催されました。

大阪青年会議所では、一般社団法人港まちづくり協議会大阪様との共催で運営協力を行うとともに、はるな愛様とのステージ対談など、機運醸成についての様々なイベントを行いました。

2025年の大阪・関西万博においては、大阪青年会議所も多くのパビリオンへの参画を予定しており、今後も大阪のまちの活性化や国際化に向けた様々な活動を行っていきます。



広報紹介

大阪青年会議所 公式SNS



facebookを通じて事業のPRや
活動報告をしています。



インスタグラムでは、事業のチラシや
活動写真をメインにアップしています。



YouTubeでは会員の資質向上のための
動画配信や、PR映像を配信しています。



TikTokでは事業のPR、魅力や
活動状況のショート動画を配信しています。



活動協力企業及び連携先紹介

Introduction of Cooperating Companies and Partners

ZERO HIGH PROJECT

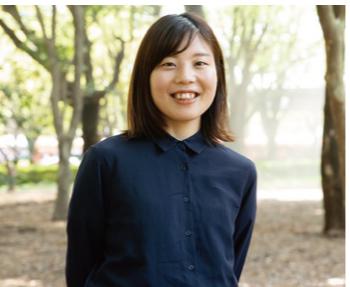
この度は、ZERO HIGH PROJECTに、講師監修として参画させていただきありがとうございます。私が代表を務めるRe-Generationでは、「次世代×産官学民」をテーマに自治体/企業と次世代をつなぐ、企画・調査を全国で実施しています。都市圏の若者と、海との距離が離れ、海洋問題に興味関心を持つきっかけは中々ありません。その中で、ZERO HIGH PROJECTは未来を担う次世代に対して、ワークショップやフィールドワークなどを通じ、海洋問題への理解を深めつつ、「実践」の機会を提供しています。浜辺でのゴミ拾いや実店舗と連携した実証実験など、経営者が集まる大阪青年会議所だからこそプログラムであり、私自身も刺激を受けました。大阪関西万博に向けて活動は継続し、会場でも活動を発表されるということで、ZERO HIGH PROJECTがさまざまな自治体・企業を巻き込んで行くことが楽しみです。



一般社団法人リジェネレーション
(Re-Generation)
代表理事 右近 宣人 氏

ZERO HIGH PROJECT

この度は、「ZERO HIGH PROJECT」の集大成である、「未来環境サミット」に講師としてお招きいただき、誠にありがとうございました。学生の皆さんが半年間、環境問題に向き合ってきた努力の集大成を目の前で観ることができ、大変光栄でした。戸惑いや不安もあったと思いますが、当日のプレゼンは皆さん堂々とされており、素晴らしかったです。私自身としても学びの多い時間でした。気候危機・プラスチック汚染危機は待ったなしです。これらの課題に取り組むことは、我慢したり経済を諦めることではなく、むしろ私たちの暮らしの質を高めていくことだと思います。業界を超えて様々な人々が対話を重ねて協力し行動することが必須ですが、中でも地域に根ざした活動には大きなポテンシャルがあると思います。知恵を出し合い、地域が抱える他の課題を同時に解決しながら、地域がより良くなる形で気候変動対策を進めることができるはずです。今後も皆様と様々な機会でご一緒できることを願っております。



国際環境NGOグリーンピース・ジャパン
コミュニティアウトーチ担当
儀同 千弥 氏

Worldwide International Network Promotion(WIN Pro)

この度は国際的なリーダーを育成する事業「WIN Pro」に総合監修として参加させていただき、ありがとうございました。短期間で大学生が独自の発想や視点を持って事業会社の海外での新規事業立ち上げるためのビジネスアイデアを構築するというかなりハードルの高いプロジェクトでしたが、半年間のプログラムで脱落した学生は一人もおらず、協力企業と学生が同じ目標で議論し、アイデアを出し、プレゼンテーションする姿に「日本の将来は明るい！」と確信いたしました。海外企業に対して自分達が考えた新規事業を英語でプレゼンテーションする体験は学生時代の鮮烈な思い出として生涯残るだけでなく、人生において高い壁がやってきたとしても、仲間や周りの人達の協力を得ることで壁を突破する力にすることができるという自信と経験を得たこと思います。今回のチャレンジの経験を原点に、さらに力強い未来を築いていく国際人となって次代の日本、世界を創造していくことを期待してやみません。



一般社団法人OSAKA
INNOVATOR'S GUILD
共同代表 理事 長川 勝勇 氏

Kids Explorers ~心に残る、ありがとう~

このたび、「Kids Explorers」にスピーカーとして参加させていただきました。私は現役の消防士として活動する傍ら、「誰かのために行動を起こすことの大切さを伝えたい」という思いから、一般社団法人いのちを繋ぐGOODLUCKを設立しました。誰かのために行動を起こすことは、怖かったり、不安があったりするものです。とても勇気がいることです。その勇気ある一步の先には、助かる命や未来があります。今回のイベントでは、子どもたちと一緒に「目の前で助けを求める人に対して、自分たちには何ができるのか?」をテーマにディスカッションを行いました。子どもたちの真剣な眼差しや積極的な意見から、「助けることに年齢は関係ない。誰にでもできることが必ずある」という大切な気づきを得ることができました。このような機会をいただいた大阪青年会議所の皆様に心より感謝申し上げます。今後も、勇気ある行動の先にある命や未来を守るために、この想いを伝え続けていきます。



一般社団法人いのちを繋ぐ
GOODLUCK
代表理事 外山 岳 氏

シスターJC締結

Signing of Sister JC



01 JCIリパ(フィリピン)

世界会議桃園大会の桃園会展中心にてシスターJCの締結式が執り行われました。双方の活動報告を行い互いの発展を誓い合いました。



大阪青年会議所 2024年度のあゆみ

JCI OSAKA 2024 Activity Report



新年名刺交換会



新人セミナー



整肢学院児童レクリエーション事業



サマーコンファレンス2024



Worldwide Innovation Network Promotion



世界会議桃園大会



大阪会議



8LOM合同例会



献血プロジェクト2024



近畿地区大会 奈良大会



桜通りフェス



全国大会 福岡大会



京都会議



第43回大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会



オヤケウ 6月～7月



ZERO HIGH PROJECT



大阪ブロック大会 枚方大会



海洋ゴミリサイクル事業



入会式



ASPACアンコール大会



Kids Explorers～心に残る、ありがとう～



TOYP



こども食堂



会員大会

2024年度組織図

2024 Organization Chart



常任理事・委員長 常任理事・委員長 常任理事・室長 常任理事・室長 常任理事・室長 常任理事・室長 常任理事・副室長 常任理事・室長 常任理事・室長



A horizontal row of eight individuals, all dressed in professional attire consisting of dark-colored suits, white shirts, and patterned ties. They are positioned side-by-side, facing forward towards the camera.



理事・副室長 委員長 委員長 委員長 委員長 委員長 委員長 委員長 委員長



A horizontal row of nine identical headshots of a man. He has short brown hair and is wearing a dark blue suit jacket over a white collared shirt and a green patterned tie. The background is a plain, light color.